



ダメ！高齢者虐待

性的虐待

87歳のAさんは、息子夫婦と同居し、お嫁さんの介護を受けながら暮らしています。

Aさんは、腰やひざの痛みにより、ゆっくりとしか動くことができません。そのため、トイレに間に合わず、何度も下着を汚してしまいました。

お嫁さんは、Aさんが失禁するたびに「早めにトイレに行くように言っているのに、どうしても間に合わないの。洗濯するわたしの身にもなってください」と怒るようになりました。そして、失禁の罰としてAさんの下半身を裸のまま、トイレの前に立たせるようになりました。

Aさんは、水分を取らなければ失禁しなくなると考え、できるだけ水分を取らないようにしましたが、脱水症状で幻覚を見るようになりました。

様子がおかしいことに気が付いた家族がAさんと病院を受診したところ、失禁に関する話を聞いた病院の相談員が、地域包



括支援センターを紹介しました。

地域包括支援センターでは、ポータブルトイレの利用を提案。介護保険を利用してポータブルトイレを購入し、失禁の問題を解決することができました。

また、デイサービスの利用も決まり、家族の負担を軽減することができました。

『何かおかしい』

『どうしたらいいんだろう』
そう思ったら、お気軽に相談窓口ご連絡してください。

▼高齢者虐待に関する相談窓口

高齢・介護グループ (☎855

720)、または地域包括支

援センターあおい (☎8305

11)・ゆのか (☎88210

6)・「けいあい」(☎825

005)

人が輝き まちがときめく

仲間たち Group

パーチメント和華

『パーチメント和華』は、市内では珍しい『パーチメントクラフト』を作るサークルとして平成20年1月に結成され、月1回、婦人センターで活動をしています。

パーチメントクラフトとは、厚手のトレーシングペーパーに絵を描き、エンボス（浮き彫り）加工をしたり、レースのような穴を開けたりしてグリーティングカードや壁飾り、ランプシェードや小箱など立体的な作品を作るアートです。

「出来上がったカードなどにメッセージを添えてプレゼントすると非常に喜ばれます」と話すのは、代表の菊地京子さん。

「初めてパーチメントクラフトの作品をご覧になった方は、とても難しく自分ではできないので



はないか？と皆さんおつしやいます。わたしもその一人でしたが、佐藤美和子先生と伊藤亨子先生の指導を受けながら簡単なものから始め、少しずつ難しいものにチャレンジしています。また、活動日以外でも、自宅で家事の合間などに取り組める手軽さがあります。ぜひ、一緒に作ってみませんか」と呼び掛けていました。

一昨年の市民文化祭でのクラフト体験を機に入会した、みな子さん、寿子さん、王恵さんの3人は、「少し難しい作業があったりしますが、作品が出来上がったときの感激はひとしおです。また、少しずつ上達していくことが励みになります。出来上がった作品は、自宅などに飾って楽しんでます」と楽しそうに話してくれました。

体験や入会を希望される方は菊地さん (☎832782) まで。



紙が素敵なアートに変身
仲間と語らいながらの作業はとても楽しいです